

# 羅針盤

主幹 荒木 光弥

## 第10回太平洋・島サミット 海洋国家日本の責務を求めて

### 中国に仕掛けられた汚染水

第10回太平洋・島サミット (PALM10) が7月に東京で開催された。ここでは、これまで海洋国家日本が辿って来た海洋トラブルの歴史を取り上げてみたい。

それは、一つに多核種除去設備 (ALPS) 処理水の海洋投棄 (放出とも言う) の問題であると言える。ALPS処理水とは、東京電力福島第一原子力発電所の建屋内にある放射性物質を含む水から、トリチウム以外の放射性物質の安全基準を満たすまで浄化した水のことである。

トリチウムについても安全基準を十分満たすよう、処分する前に海水で大幅に薄め、その濃度は国の定めた安全基準の40分の1未満になるよう処理されており、経済産業省も環境や人体への影響は考えられないと説明している。

ところが、これに対し、太平洋地域から批判の狼煙 (のろし) があがった。批判側の一番手は、海洋進出を狙う中国である。そして

その中国に引きずり込まれるように、太平洋の地域協力機構である太平洋諸島フォーラム (PIF) が続いた。

中国はALPS処理水を“核汚染水”と呼んで、太平洋諸国の反日運動を仕掛けたと言われている。中国は太平洋諸国を味方につける絶好のチャンスと考えているからである。

太平洋島しょ国には、過去に欧米の核実験にさらされているだけに、原子力へのアレルギーが堆積されている。だから、太平洋諸国は、中国の“核汚染水”という宣伝文句に振り回されたと見られている。ところが、太平洋ムルロア環礁でのフランスの核実験にさらされたニュージーランド、オーストラリアも批判的で、国連総会でも非難しているのが反核意識は南半球に広がっていると言える。

そういう状況だから、中国にALPS処理水を“核汚染水”だとあおられると、太平洋島しょ国にとっては、不安要因が積み重ねられるばかりとなる。この時点で中

国に喧伝された“汚染水”というイメージがじわじわと南太平洋に染みわたり、それが戦略的な虚報だとわかっているにもかかわらず、日本への外交手段として、利用価値が高いと思う国が太平洋地域に増えたと言われても不思議ではない。

### 核アレルギーの太平洋地域

とにかく核アレルギーの強い南太平洋地域だけに、“核汚染水”と言われると、本能的に拒否反応が起こりがちだ。いずれにしても、日本は広報戦略を含めて、外交的に敗北していると言われても反論できないだろう。そうした中で、日本は今回のPALM10で、どういふことを提案するのか、名誉挽回という意味でも、その行方が注視された。

そこで次に、問題の発端となったALPS処理水の歴史を少々追跡してみたい。

時代は1979年にまでさかのぼる。その頃から、日本国内の原子力発電所から出された放射性廃棄物を日本に近い公海に投機しよう



特集

# 島国との絆

## 太平洋協力と信頼醸成

赤道の南北に渡って広がる、太平洋の島しょ国。  
人口が約2,000人のニウエ、面積が約26km<sup>2</sup>のツバルといった  
小国のほか、日本より大きな国土を持ち、資源が豊かなパプア  
ニューギニアもある。

こうした多様性を持つ国々と、日本の地域協力を話し合う枠  
組みが「太平洋・島サミット(PALM)」だ。1997年の設立以降、3  
年ごとに開かれ、今年7月に第10回が開催された。

列島で成り立つ日本は、太平洋を共有する「絆(キズナ)」に言  
及し、自然なパートナーシップを強調してきた。だが、最近はこの  
絆の重みが改めて問われている。



Zoom UP!

## 太平洋島しょ国と日本の深いつながり

### 1. 総論

- 日本独自の島しょ国外交 大阪学院大学教授 小林 泉氏
- 島国の仲間として共に歩む

### 2. 島しょ国の声

- 同じ島国の脆弱性持つ日本  
トンガ 駐日大使 テヴィタ・スカ・マンギシ氏
- 脱炭素、観光、漁業などに日本は一層の協力を  
パラオ 大統領 スランゲル・S・ウィップス・ジュニア氏

### 3. 企業や行政などの取り組み

- 国際航業(株) / 「廃棄物管理なら日本」の認識に
- (株)ソラミツ / ソロモン諸島などにデジタル通貨の導入
- 兵庫県三田市 / パラオの循環経済を引っ張るエコグラス
- 東京農業大学 / トンガで栽培と加工の技術を追求
- (株)シンクシー / サモアでとれた魚の皮でものづくり

### 4. 記者の目

- 太平洋諸国の最大の課題は気候変動

キリバスの「ニッポン・コースウェイ」。コースウェイは1985年に日本の無償資金協力により整備された約3.4キロの海上道路で、国際港が位置するベシオ島と官庁街が存在するバイリキ島を結ぶ。老朽化、潮流や気候変動などの影響で高潮による浸食が進み、交通に支障をきたしていたため、2016年から全面的な改修が行われた。(株)建設技研インターナショナル提供

## 太平洋島しょ国と日本の深いつながり

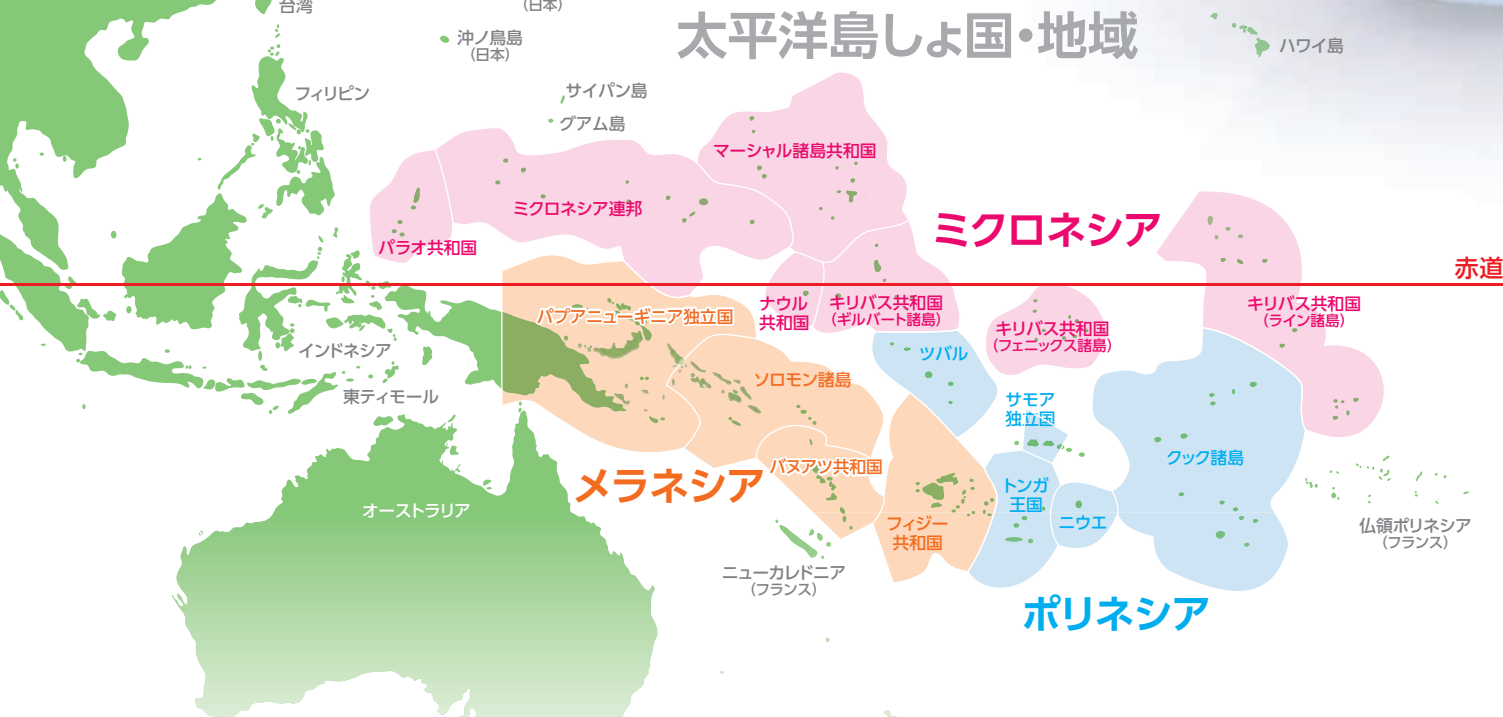
太平洋島しょ国と聞くと、「青い海」「雄大な自然」など楽園のイメージが強い人もいるだろう。一方で、この島しょ国は日本と地理的にも歴史的にも深い関わりを持ってきた。

### 太平洋諸島フォーラム (PIF: Pacific Islands Forum)

太平洋・島サミットに参加する島しょ国・地域は、太平洋諸島フォーラム (PIF) に加盟している。PIFとは、1971年に独立後間もない太平洋島しょ国・地域と豪州、ニュージーランドが参加して発足した地域協力の枠組み。事務局はフィジーの首都スバにある。

出典: 外務省の公開情報を基に本誌作成

### 太平洋島しょ国・地域



### 大洋州地域との歴史的関係性

1914年8月、欧州で第一次世界大戦が勃発。日本は日英同盟に従い参戦し、ドイツに宣戦布告をする。同年10月には太平洋島しょ国に海軍を派遣し、ドイツ領のミクロネシア地域を無血で占領。そこから日本の南洋統治が始まった。その後、現在のマーシャル諸島、パラオ、米領北マリアナ諸島を次々と占拠した。海軍が素早く進出を進められた理由には、明治時代から、日本人が各島に労働移民として渡り、商業活動を成功させていたことが大きいとされる。日本の南洋統治に米国は反対し続けていたが、1920年に発足した国際連盟の委任統治制度に当てはめ、日本の委任統治が正式に認められた。

委任統治領では、国際連盟により軍事施設の建設や軍事訓

練の禁止などの制約条件が課せられ、地元民らの利益のための教育や福祉行政を行い、報告することが義務付けられた。日本は産業を活性化するためのインフラ整備や学校建設など、社会の発展に貢献した。多くの日本人が海を渡り、1940年時点では、地元民5万1,000人に対して日本人移住者は8万5,000人とふくれ上がった。

太平洋戦争中の1944年2月、米軍はミクロネシア地域の日本海軍基地への本格的な攻撃を開始。ミクロネシア、メラネシアが日本防衛の最前線として激戦地となった。日本の敗戦により、南洋諸島は米軍に占拠されることになった。

このような背景から現在もミクロネシア地域には多くの日系人が居住しており、その人口は約2割と言われている。